

## 短 報

ナデシコ科の新帰化植物イワコゴメナデシコ (大橋広好<sup>a</sup>, 伊藤隆之<sup>b</sup>)

Hiroyoshi OHASHI<sup>a</sup> and Takayuki ITOH<sup>b</sup>: *Gypsophila oldhamiana* Miq. (Caryophyllaceae), a New Introduced Plant in Japan

中国東部から東北部および朝鮮半島に分布するイワコゴメナデシコ *Gypsophila oldhamiana* Miq. が愛媛県内に定着している。日本への新帰化植物と思われるので、ここに記録しておきたい。

イワコゴメナデシコ (Figs. 1, 2) は愛媛県今治市砂場町、西瀬戸自動車道 (シマナミ海道) の側道の法面に多数の個体が帰化している。この場所には既に報告したようにオオバメドハギ、トウクサハギ、カラメドハギが帰

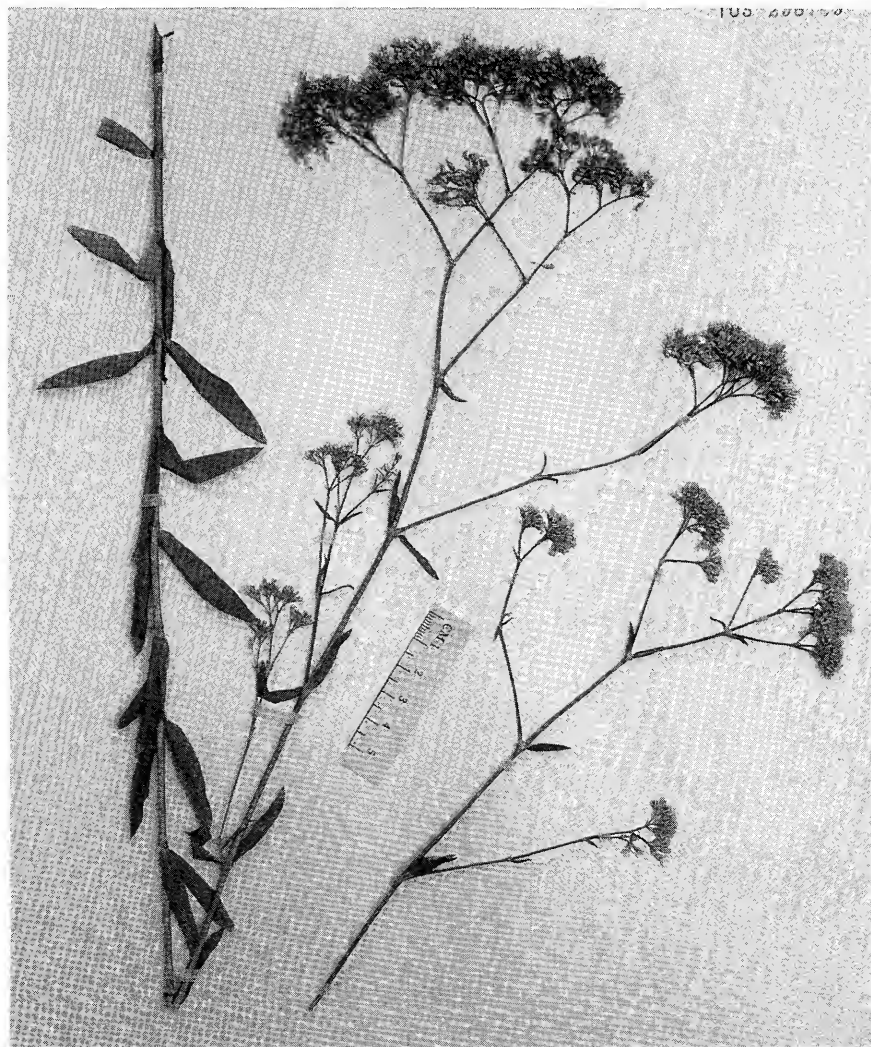


Fig. 1. *Gypsophila oldhamiana* Miq. Voucher specimen: T. Itoh 22819 (TUS 298709).

化しており（大橋他 2003），その他にもマキエハギ，イヌハギ，シベリアメドハギ，コマツナギなどが帰化している．これらの種類はいずれも中国に自然分布し，その中には中国固有種も含まれている点からみて，中国から移入されたものと推測される．イワコゴメナデシコはこれらの帰化植物と共通の場所に生育することから，本種も多分中国から帰化したものと考えられる．西瀬戸自動車道路新設工事に際して建設業者により新道の法面に吹き付けられた種子から生じたものに由来したと思われる．

清水（2003）「日本の帰化植物」では *Gypsophila* 属の帰化植物としてヨーロッパ原産のヌカイトナデシコが横浜市に記録されている．ヌカイトナデシコ（清水 2003 による）に比較すると，イワコゴメナデシコは大型の多年草で，高さ 60–100 cm となる．茎は無毛，葉は対生し，狭長楕円形，鋭頭，茎の下部では大型で，長さ 6–8 cm，幅 1.5–2.6 cm になり，植物体上部の花序をつける枝では長さ 4–5 cm，幅 5–8 mm（ヌカイトナデシコでは葉は糸状，長さ 2–15 mm，幅 0.3–2 mm）となる．花序は散房花序状の集散花序，大型のものを頂生し，茎上部の葉腋につくものは小形（Fig. 2）．花は多数が密生する．花柄は長さ 2–5 mm（ヌカイトナデシコでは長さ 8–15 mm）．萼は長さ 2–3 mm，白色で中央脈と周りの部分は緑色，萼筒部は全長の 2/3，上部の 1/3 は 5 裂する．裂片は卵形で長さ約 1 mm，鋭頭，縁は全縁（ヌカイトナデシコでは鈍頭，縁に微齒あり）．花卉はうすいピンク，弁状部の長さは萼裂片の約 2 倍．雄蕊は花卉より長く，抽出する．花柱は糸状，上部は抽出する．朔果は卵形，萼とほぼ同長．種子はほぼじん臓形，径約 1.2–1.5 mm（ヌカイトナデシコでは径約 0.5 mm）．

本種は中国で多くの植物誌に図説されていて，上に挙げたものの他にも中国高等植物図鑑 1: 642，図 1284（1972）；東北草本植物志 3: 51，pl. 20，figs. 7–10（1975）；北京植物志修訂版上册 212，図 267（1984）；Flora of China Illustrations 6: 103，fig. 103: 12–16（2003）などにも図がある．韓国でもいくつかの図解があり，鄭台鉉：韓国植物図鑑（下巻草本部）209，図 418（1956）および李昌福：大韓植物

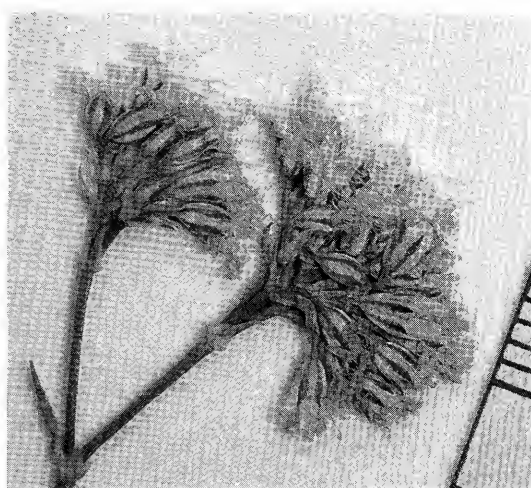


Fig. 2. Inflorescences of *Gypsophila oldhamiana* Miq. enlarged from Fig. 1.

図鑑 333，図 1332（1980）に線画があり，李愚喆：原色韓国基準植物図鑑 pl. 86: 514（1996）に標本写真がある．北朝鮮では Im Rok Jae（1996）: Flora Coreana 2: 83，fig. 70 に線画がある．

なお，*Gypsophila* 属にはイトナデシコ属（牧野・根本 1931，石井 1952）あるいはカスミソウ属（最新園芸大辞典編集委員会 1968，清水 2003）という和名が使われている．イトナデシコ属という和名の由来をたどってみると，松村任三（1884）「日本植物名彙」にイトナデシコ *Gypsophila perfoliata* L. の名があり，これがこの属の植物に対する最初の和名のようなのである．「帝国大学理科大学植物標品目録」（1886）によれば，これは小石川植物園に栽培して標本とされた．一方，カスミソウ属の和名は *G. elegans* M. Bieb. をカスミソウと呼ぶことに由来すると思われる．*G. elegans* M. Bieb. は大正初年に渡来したとされ（石井 1952），これを牧野・根本（1931）「改訂増補日本植物総覧」ではハナイトナデシコまたはフタマタコゴメナデシコとしたが，石井（1952）「園芸大辞典」ではカスミソウ，一名ムレナデシコと呼んでいる．「牧野新日本植物図鑑」（1961）ではムレナデシコ（別名ハナイトナデシコ）としている．カスミソ

ウは園芸関係で一般に使われてきた名称のようである(最新園芸大辞典編集委員会 1968, 塚本 1994). 近年この植物が切り花として広く利用されているため, 属を代表する名称とされるようになったのであろう.

**Gypsophila oldhamiana** Miq. in Ann. Mus. Bot. Lugduno-Batavi 3: 187 (1867); Nakai in J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo 26: 83 (1909); Kitagawa, Lineam. Fl. Mansh. 198 (1939); Inst. Bot. Boreali-Occidentali: Fl. Tsinlingensis 1: 216, fig. 184 (1974); Kitagawa, Neo-Lineam. Fl. Mansh. 267 (1979); 中国植物志 26: 434, fig. 112: 11–15 (1996); W. T. Lee, Lineam. Fl. Koreae 255 (1996); Lu & Turland, Fl. China 6: 110 (2001).

和名: イワコゴメナデシコ.

証拠標本: 愛媛県今治市砂場町, 西瀬戸自動車道(シマナミ海道)の側道, 法面に帰化(Japan. Ehime Pref., Imabari-shi, Saba-chô, a road along Nishiseto Expressway (Shimanami-Kaido), naturalized). 27 July 2002. 伊藤隆之 T. Itoh 22727 (TUS 298708); loc. cit. 19 August 2002. T. Itoh 22819 (TUS 298709); 今治市砂場町二丁目, 西瀬戸自動車道の側道

(Japan. Ehime Pref., Imabari-shi, Saba-chô 2-chôme, a road along Nishiseto Expressway (Shimanami-Kaido), naturalized). 29 June 2003. 伊藤隆之 T. Itoh 23629 (TUS 300334).

#### 引用文献

- 石井勇義(編) 1952. 園芸大辞典 3. 誠文堂新光社, 東京.  
 前川文夫, 原 寛, 津山尚. 1961. 牧野新日本植物図鑑. 北隆館, 東京.  
 牧野富太郎, 根本莞爾. 1931. 訂正増補日本植物総覧・春陽堂, 東京.  
 松村任三(編纂), 矢田部良吉(閲) 1884. 日本植物名彙. 丸善蔵版.  
 大橋広好, 根本智行, 伊藤隆之 2003. ハギ属の帰化植物 4 種. 植物研究雑誌 78: 50–54.  
 最新園芸大辞典編集委員会 1968. 最新園芸大辞典 2: 933–934. 誠文堂新光社, 東京.  
 清水建美 2003. カスミソウ属. p. 55. 清水建美(編), 日本の帰化植物. 平凡社, 東京.  
 帝国大学編纂(松村任三) 1886. 帝国大学理科大学植物標品目録. 丸善商社, 東京.  
 塚本洋太郎(総監修). 1994. 園芸植物大辞典, コンパクト版. 小学館, 東京.  
 (\*東北大学附属植物園津田記念館,  
 愛媛県立西条高等学校)

#### マメ科の新帰化種ナガバメドハギ(新称)(大橋広好<sup>a</sup>, 根本智行<sup>b</sup>, 伊藤隆之<sup>c</sup>)

Hiroyoshi OHASHI<sup>a</sup>, Tomoyuki NEMOTO<sup>b</sup> and Takayuki ITOH<sup>c</sup>: *Lespedeza caraganae* Bunge (Leguminosae), a New Introduced Plant from China

2003年に中国に原産するハギ属植物 4 種の帰化を報告した(大橋他 2003). そのうち 3 種はハギ亜属の種で, いずれも愛媛県内で伊藤によって発見されたものであった. それらはオオバメドハギ *Lespedeza davurica* (Laxm.) Schindl., トウクサハギ *L. floribunda* Bunge およびカラメドハギ *L. inschanica* (Maxim.) Schindl. であった. 今回報告する *Lespedeza caraganae* Bunge もハギ属ハギ亜属の 1 種で, 中国の固有種とされているものである. 愛媛県と徳島県内で伊藤によって採集された(Fig. 1, A, B). ここに新帰化植物として記録し, 小葉が細長いことに基づいてナガバメドハギの和名を与えたい. 中国でも本種の名は長葉鐵掃帚または長葉胡枝子といい, やはり小葉の特徴に基づいて命名されている.

Li and Chen (1995) によれば, *Lespedeza*

*caraganae* Bunge は遼寧, 河北, 陝西, 甘肅, 山東, 河南省等に分布し, 海拔 1,400 m 以下の山地に生育するという. 愛媛県と徳島県の採集地はオオバメドハギなどの帰化種の生育地と同じく道路の法面であった. 新道路建設の際に法面に吹き付けられた種子から生育したものである.

ナガバメドハギはシベリアメドハギ *L. juncea* (L. f.) Pers. に酷似する. シベリアメドハギの学名は *L. juncea* (L. f.) Pers. であり, この学名はカラメドハギと呼ばれていたが, カラメドハギという和名は *L. inschanica* (Maxim.) Schindl. に対して用いるべきであると思う. これらの和名と学名の対応については大橋他(2003)を参照していただきたい. ナガバメドハギとシベリアメドハギとが特に似ているように見えるのは小葉の形であり,